

2023 年度 機器・分析技術研究会に参加して

共通機器部門 藤高 仁

1. はじめに（目的等）

本研究会は、各教育・研究機関の機器分析に携わる技術職員が、日頃の業務の成果等を討論するものである。本研究会を通じて全国の技術職員と交流し日常の業務遂行に役立てるために出席した。

2. 期間・場所

期間：2023 年 9 月 6 日～8 日

場所：熊本大学黒髪キャンパス南地区 工学部 2 号館および工学部 100 周年記念館

3. 参加者等

大学、高等専門学校、大学共同利用機関等の技術職員 135 名

4. 研修内容

研究会前日に会場を訪れ来年度広島大学にて開催される同研究会の前日の会場設営や受付準備を視察し意見交換を行った。

研究会初日は、特別講演 1 を熊本大学産業ナノマテリアル研究所波平隆男先生より「パルスパワーの食品やリサイクルへの応用」と題して講演が行われた。続いて株式会社日立ハイテクコアテクノロジー&ソリューション事業総括本部多持隆一郎様より「走査電子顕微鏡(SEM)の進化と現状」と題してご講演いただいた。その後ポスター発表 45 件が行われた。2 日目は特別企画として、日本電子株式会社、安原様[JEM-ARM200F/NEOARM を用いた解析事例]同社朝倉様「有機化合物構造解析の 3 種の神器による、構造解析の新しい世界」と特別講演、熊本大学宮緑育夫先生「わが国で多発する火山災害とその調査研究」続いて口頭発表 19 件が行われ盛会のうちに終了した。

5. まとめと感想

当研究会は機器・分析にかかわる教育研究機関等の技術職員の発表と交流の場として開催されている。来年度広島大学にて同研究会が開催されるため準備段階より視察に伺い研究会開催への段取りを勉強した。現場スタッフも適切に人員が配置されていたが、コンパクトにまとめられている様子が伺えた。来年度の研究会開催に向け可能な限り費用と手間を押さえることができるか、参考にできたと考える。来年度の運用の視察だけではなくポスター発表、口頭発表を通じ共に多くの他機関職員と議論できたため大変有意義な学外研修であった。